

西中学校区 保幼小中連携通信

グロージングアッププラン 3年目 「点から面でつながる連携」

第2号 令和元年 7月 11日 発行責任者 黒岩 充
(西中学校区連携コーディネーター)

保幼小中合同授業研

ありがとうございました

6月11日、西中学校で全クラス（支援学級も含む）の公開授業をしました。今回の目的は前回の通信でも書かせてもらいましたが、2つでした。1つ目は西中では取り組んでいる授業規律『J4・J3』を見ていただくこと。もう一つは『小中の段差』をより少なくするためにどうしていけば良いのか考えていただくことでした。↑当日の廊下の様子です



当日は、たくさんの先生が西中の『日頃の授業』を参観していただきました。ありがとうございます。今回の2つの目的に関して様々な意見を書いていただきました。その中に、次のようなことが書いてありました。

○西中校区全体としてJ4・J3的なことを、どの小学校でも取り組んでいるので、以前より段差は少なくなっているように感じた。

○J4・J3と小学校と同様の授業規律があり、小学校の延長上として授業に取り組めると感じた。

○J4・J3（他にも）を小学校で取り組めることは取り入れたい。

○授業に対する姿勢が良く、J4のもと、メリハリがあり、「初め」と「終わり」の切り替えが出来ていた。

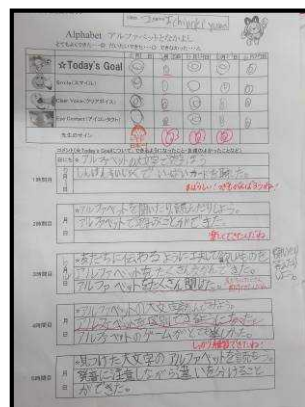
- ・目標の書き方が分かりにくかった。
- ・何をめあてにしている授業なのか途中からだとすぐに分からないクラスがあった。
- ・先生によって差があるように感じた。

今年度の西中では、すべての先生が西中の授業スタンダード『J4・J3』をしっかりとすることが課題のひとつです。ただ、出ていない授業もあるかもしれませんが、西中校区全体として、同じような方向で授業をしている、もしくはしようとしていることが伝わったと思います。また、上記の感想以外にも「どのクラスでも共通したルールがあって、それが子どもたちによく身についている。とても落ち着いている印象がある。」などJ4・J3を実践することに肯定的なご意見も多数ありました。これからも西



中として、また西中校区として J4・J3を基本とした『授業スタンダード』をもっと明確にし、みんなで実践していくことが大切であると感じました。

ただ、上記の課題以外にも「講義形式の授業で、教師中心で進んでいた」「教師の話す割合が多く感じた」「生徒の活動が少なく感じる」という指摘があったのも事実です。これらをひとつひとつ改善していくことがもう一つのテーマ『小中の段差』を少なくすることにつながってくると思います。また、6月25日（火）に畑田小学校で行われた増田先生の外国語の研究授業では、アクティビティとして班活動やペア活動を授業の半分ほど入れていました。最後には身近なものをうまく使って“まとめ”をして、ふりかえりプリントでその時間の学習を振り返っていました。授業の流れは小学校も中学校も同じだと感じました。これは『小中の段差』を少なくしている要因の一つだと思います。



各小学校の卒業生が頑張っています！

6月3日（月）～21日（金）の3週間、教育実習生が西中に来ていました。馬場涼太郎さん（理科・春日丘小卒）、木村員子さん（数学・畑田小卒）、藤井優成さん（社会・春日小卒）、仙田麻美さん（保健養護・郡小卒）、前川奈緒子さん（英語・私学卒）の5名です。短い時間でしたが、どの実習生も生徒と積極的に関わっていたり、授業を一生懸命にしていました。

本当にお疲れさまでした。どの実習生も教師になることを目指していました。頑張っていました。頑張っていました。頑張っていました。

